

株式会社 東京ナレッジプラン

つなぐ

2025年

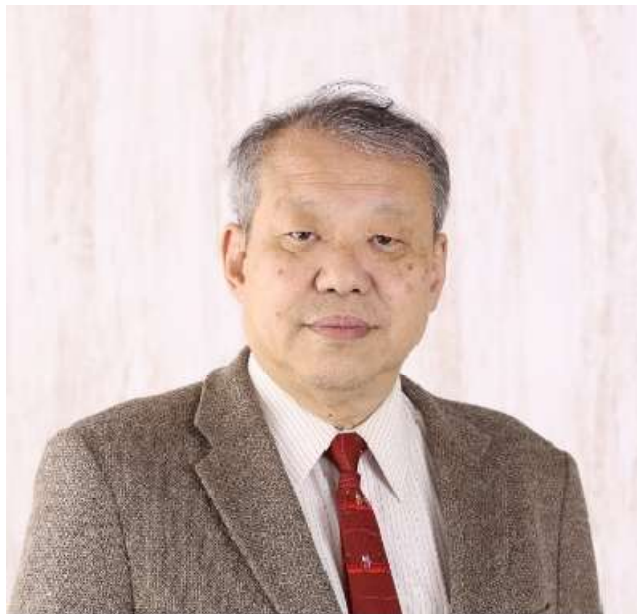
① & ②

機関誌創刊号



ごあいさつ

株式会社東京ナレッジプランは、人材育成をお手伝いする会社として、今年で創業8年目を迎えることが出来ました。
これは日頃から、ご支援を頂いている皆様により感謝を申し上げます。



吉田健一（よしだけんいち）

- ・1956年兵庫県出身
- ・ダイハツ工業にてトヨタ生産方式による改善指導、社員教育改善を各社で進める仲間と共に2017年に株式会社東京ナレッジプランを設立

⑤レイアウト

この度、弊社として初めて、機関誌を定期的に発行させて頂くことになりました。東京ナレッジプランの取り組みや教育に関する情報提供、各地区でお客様とともに取り組み中の講師やお客様の声を紹介して行きます。
ぜひお楽しみにお読み頂ければ、ありがたいです。

発刊にあたり、我々の事業の主な特徴について紹介します。

- 1)講師体制の広さ、深さ
政府が進める「働き方改革、生産性向上プロジェクト」を構成する実施機関として参画するうちに、全業種全分野にて人材育成を進められてきた40都府県に在住する60名あまりの講師体制ができました。さらに定期かつ頻繁な分野別社内研修を通して、常にお客様のお役に立てる講師実力向上を心がけています。
- 2)オリジナルで、お客様ニーズ密着の教材、実例
お客様の業種分野を経験した講師が、教育のねらいや実施内容を考えた100コース以上の基盤教材をラインアップ。さらにお客様ニーズに沿うカスタマイズを施した教材や実例で講義を進めます。
- 3)講義後の習熟度評価や振り返りフォローについても、ご一緒に、より良い教育システムを提供します。

さて、今回の機関誌として発刊する「つなぐ」は、東京ナレッジプランの会社がめざす理念として「人と出会い、人をつなぎ、人をそだて、世を創る」としてあげている「人をつなぐ」から付けた名前です。ひとりでも多くの人とつながり、そしてお互いに育っていくことに少しでもご関与出来ることが、私たちの最大の喜びです。これからも引き続きよろしくお願い致します。

東京ナレッジプランの教育

《集合教育》

- 座学と演習による知識の習得
- グループワークで学習した知識を共有する
- 宿題を与えることで知識の応用内容を考え、相手に伝える資料をつくる
- 相手に自分たちの言葉で伝える

座学

演習

宿題

報告

==すすめ方==

- ・座学：オリジナルテキストにより知識と知恵を学習します
- ・演習：座学で学習した内容をグループワークにて応用問題として学習します
- ・宿題：関係者のスケジュールを合わせ、内容を検討してまとめることを学習します
- ・報告：グループでまとめた内容を相手（講師）に対して説明することを学習します

《Web教育》

- 自分で学習する計画を教育ポータルに登録する
- すき間時間にテキストを使いながら自主的に学習する
- 学習した内容についての理解度を確認するテストを受ける
- 学習した内容をもとに実践し、結果をレポートにて振りかえる

個人学習

グループ学習

講師と学習

==すすめ方==

- ・個人学習：自主的に業務のすき間時間を利用して学習します
- ・グループ学習：設定したテーマについてグループで検討しながら学習します
- ・講師と学習：3名迄の受講生と一人の講師によるマンツーマンに近い状態で学習します

講師のみなさん紹介 [東日本]

今回から東京ナレッジプランに所属されている講師の方に普段では聞くことのできない内容をヒアリングしてきました。
講師の方の紹介を少しでもお伝え出来ればと考えています。
インタビューを務めます細田と申します。 どうぞよろしくお願いいたします。



佐々木克直（ささきかつなお）講師



佐々木克直

- ・2018年1月東京ナレッジプランに所属
- ・コンピュータメーカの生産技術を20年、SEとして18年を経験し、現在は多分野の企業への「ものづくり」を中心とする指導を手掛けています

- ・インタビュー
はじめまして
佐々木先生は東京ナレッジプランに所属されている先生方で多くの研修を実施されているお伺いしていますが、どのような研修を実施させていますか？
- ・佐々木講師
私の研修では特に受講者に問いかけ、考えていただく内容が多いかとも思います。研修の構成としては、座学、演習、宿題、報告とした内容で演習（グループワーク）に時間を多くとるようにしています。
- ・インタビュー
今までの研修で何か印象的だった内容があれば教えてください
いただければと思います
- ・佐々木講師
そうですね、私がお教えしているものづくり分野ですが、現場での経験や事例などを多く用いるようにしています。
特に仕掛けが多く発生しているとか、事故が多いなど、現場での問題は多岐にわたりますので、毎回気が抜けない研修となってしまう、ついつい力が入ってしまうこともあります。

- ・インタビュー
講師紹介のトップバッターとしてお願いしていますが、今後の取り組みなどをお聞かせいただけますでしょうか。
- ・佐々木講師
人に何か物事をお教えすることは簡単ではありません。相手のレベルや思いを感じてその場で最適な教え方が出来る様にすることがポイントかと思います。これからも受講生に寄り添った教育が出来ればと考えています。
- ・インタビュー
今後のご活躍を期待いたします。本日はありがとうございました。

<研修の実績>

実施年	実施研修内容
2025年	ノウハウの継承のための研修講師の育成/若手従業員に気づきを与える安全衛生/従業員満足度の向上/ノウハウの継承のための研修講師の育成、など
2024年	職場のリーダーに求められる統率力の向上/プロジェクトマネジメントにおけるリスク管理/品質管理 生産性分析と向上/現場社員のための組織行動力向上/データ活用で進める業務連携、など
2023年	現場社員のための組織行動力向上/成果を上げる業務改善/ものづくりの仕事のしくみと生産性向上 職場のリーダーに求められる統率力の向上/データ活用で進める業務改善/品質管理基本、など
2022年	中堅ベテラン従業員の役割/効果的なOJTを実施するための指導/DXの推進/在庫管理 生産現場の問題解決/事故をなくす安全衛生/プロジェクト管理技法の向上、など

講師のみなさん紹介 [中日本]

伊藤彰規（いとうあきのり）講師



伊藤彰規
・2020年 東京ナレッジプランに所属
・空圧機器メーカーで自動機開発を長年実施した経験を土台にした研修やRPA関連を多く担当しています

・インタビュー
現在伊藤先生はバックオフィス関連を多く実施されていると伺っていますが、前職はそのようなお仕事をされていたのでしょうか？

・伊藤講師
はい、前職の製造メーカーでは現場の設備関連を開発する部署で多くの設備を開発していた関係もありRPA関連は自信があります。

・インタビュー
RPAを教える時はパソコンなどを用いての内容でしょうか？

・伊藤講師
パソコンを使って行うことが多いですね。デモとかRPAのツールなどを紹介するのに実際に見てもらった方がわかりやすいですからね。

・インタビュー
私でも使えるツールなんかありますか？

・伊藤講師
もちろんです。RPAと聞くと難しそうなイメージがありますが結構簡単に使えますよ。受講生にはRPAがこんなに簡単に導入できる内容を教えていますので是非受講してみてください

⑧
⇒ RPAとは、説明を入れる

・インタビュー
それは是非私も受講したいと思います。
では、RPAを導入されるお客様へのワンポイントアドバイスがあれば、お聞かせいただければと思います。

・伊藤講師
まずはRPA化に適した業務とあまり向かない業務があることをお伝えしたいです。そして、向いている業務でも同じ作業を繰り返すような内容（操作）は、RPA化に向いています。みなさんの業務で同じような作業を繰り返しているものがあれば大丈夫です。必ず成果は出ますので、是非私の研修を受講してみてください

<研修の実績>

実施年	実施研修内容
2025年	・PRA活用／PRAを活用した業務効率・コスト削減 ・AI活用／脅威情報とセキュリティ
2024年	・PRA活用／PRAを活用した業務効率・コスト削減 ・ITツールを活用した業務改善／IT新技術による業務改善
2023年	・PRA活用／PRAを活用した業務効率・コスト削減 ・製造分野のDX推進／ITツールを活用した業務改善／IT新技術による業務改善
2022年	・PRA活用／PRAを活用した業務効率・コスト削減 ・IoT活用によるビジネス展開／IoTを活用したビジネスモデル

講師のみなさん紹介 [西日本]

渡辺博之（わたなべひろゆき）講師



渡辺博之

- ・2021年から東京ナレッジプランに所属
- ・電子部品メーカーにて設計開発、製造を主に担当し、人事関連も経験しています。西日本を中心に研修を行っていますが、西日本以外での活動にも積極的に対応しています。

・インタビュー

渡辺先生は関西のご出身と伺いましたが、現在も関西にお住まいでしょうか？

・渡辺講師

はい、現在は大阪府豊中市に住んでいますが、北陸地方に20年ちょっと住んでいましたので、雪の多い生活には慣れています。

・インタビュー

渡辺先生は主にどのようなカリキュラムをご担当されていますか？

・渡辺講師

ものづくり、組織マネジメント、生涯キャリア、安全衛生など幅広く対応しています。前職が製造業でしたので、現場運営や製造を支援する業務を行っていました。そこでの体験談や事例を題材に、皆で考えることを主体とした研修スタイルです。

・インタビュー

ご専門はどのような内容でしょうか？

・渡辺講師

ものづくりはもちろんですが、人事関連で社員教育を企画、実施する業務も担当していたこともあり、組織マネジメントの教育を多く実施しています。

・インタビュー

製造業にお勤めされておられましたが、その時の体験談など一つご紹介頂けませんか？

・渡辺講師

私がものづくりの現場を担当していた時のことです。品質不良率の削減を進めるにあたって、現状把握、分析、対策を関係者で議論していました。対象の現場の担当者が事実の提示と分析を行い、情報の共有を行おうとしたのですが、どうも因果関係に理不尽なところがあるように感じました。そこで関係者全員で対象の現場に行き、改めて現状把握することにしました。そうすると今まで気づいてなかった事実を見つけることができ、合理的な事実関係の把握と分析を進めることが出来ました。「現場」「現物」「現実」の、いわゆる「三現主義」ですね。

・インタビュー

ありがとうございました。やはり、ものづくりは「三現主義」が大事なんですね。

<研修の実績>

実施年	実施研修内容
2025年	・現場社員のための組織行動力向上 / 経験を活かした職場の安全確保（未然防止編） 他 ・製品開発計画
2024年	・組織力強化のための管理 / 事故をなくす安全衛生活動 / 現場社員のための組織行動力向上 他 ・製品開発計画 / 生産計画と生産統制
2023年	・職業能力の整理とノウハウの継承 / サービスマネジメントによる品質改善と向上 他 ・製品開発計画 / 生産計画と生産統制
2022年	・職場のリーダーに求められる統率力の向上 / 作業手順の作成によるノウハウの継承 他 ・製品開発計画 / 生産計画と生産統制 / 資材・購買管理

教育事例のご紹介

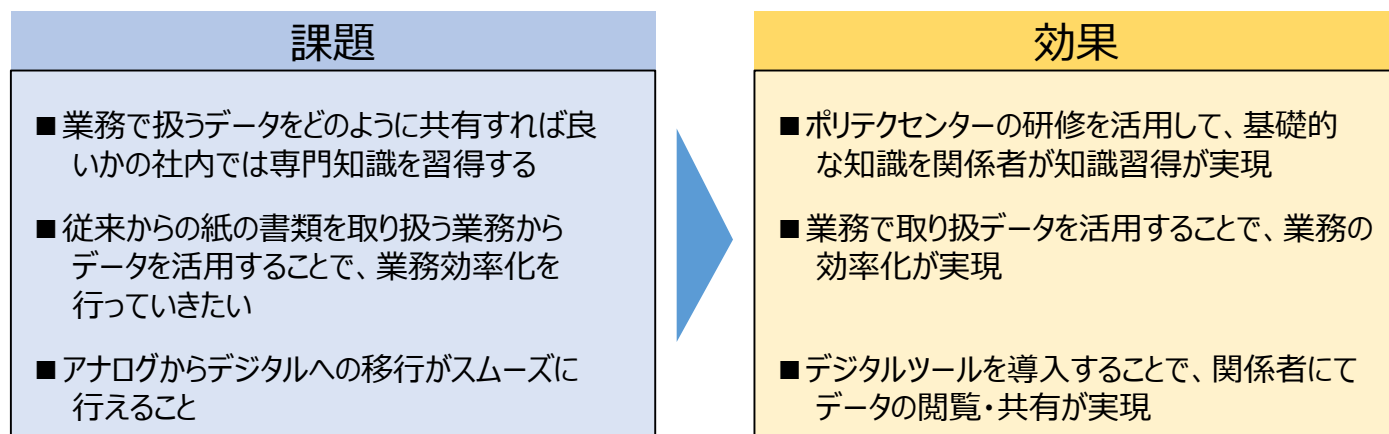


株式会社セイキ様

- ・各部署で扱うデータを共有して業務にて活用する業務効率化の一步を基礎知識教育から始める
- ・デジタルツールを導入して、業務で扱うデータを関係者が閲覧・共有することによる業務スタイル変革にチャレンジ

株式会社セイキ株式会社は岡山県を中心とした印刷物の製造を行っている企業で、今までの業務では紙の書類を多く活用していたため、事務所や製造現場にいちいち足を運び内容に確認を行っていました。

各部署が扱っているデータをどのようにした共有できるのかをまずはポリテクセンターの研修を受講することから始めました。これによりデジタルツールの導入時にスムーズに取り組めることができ、業務の効率化だけでなく新しい業務スタイルへの変革に日々取り組んでいます



■ 社員への基礎内容教育によりスムーズな業務効率を実現

社内業務の多くが手書きを主とした書類で行われており、業務の効率化も悪く業務改善が急務な状況でした。特に見積もり情報などは過去の案件検索が難しく、個人の記憶にたどっているという問題が浮き彫りとなりました。また、従業員もベテランが多くデジタル化への拒絶も多く聞かれ、一時は解決どころか暗礁に乗り上げてしまった状況となり活動も停滞気味となってしまいました。

そんな時に生産性向上支援訓練が地元岡山県でもあることがわかり、早速そのシステムを活用してまずはデジタル化への取組についてを学習することから始めました。

その後、社内の改善への関与をお願いに、具体的な研修を通じていろいろな内容に対して受講者も質問を投げかけ、デジタル化のすすめ方や実施方法の専門内容を習得させていただき、実際に自分たちでチャレンジしていく日々が始まりました。

■ デジタル化によるバックオフィス業務の効率化

わたくしたちがデジタル化に向けて実践してきたことは、

- ・まずデジタル化へ取り組んでみる
- ・既存のやり方とダブルスタンダードを面倒がらない
- ・やってみて常に改良していく
- ・インプットとアウトプットを並行して行う
- ・専門家や公的なサポートを受けながら行う
- ・リーダーが楽しんで改革をする

メンバーにも「たいへんになる」ではなく「楽になる」ということを実績で納得しながら進めるというふうに取り組んでいます。既存にあるものを整理していきながら、引き続き更に改良を重ねて、社員がバックオフィス業務に時間を取ることなく、専門の仕事に従事できるようにしていきたいと考えています。



納所裕美子さん
株式会社セイキ
代表取締役 社長

□わたしの1枚



突上御門（この門をくぐる先に住居）

《西山御殿（西山荘）》

茨城県常陸太田市にある水戸2代目藩主・徳川光圀公が元禄4年（1691年）から元禄13年（1700年）に没するまでの晩年を過ごした隠居所です。

隠居した光圀が元禄4年から9年を過ごし、ここで歴史書（大日本史）の編纂に尽力した。

当時の建物は野火にて焼失し、現在の建物は1819年に8代藩主によって再建されたものです

建物は茅葺の平屋建て、内装は粗壁のままで、どの部屋にも装飾はなく、書斎も丸窓だけの三畳間と華美を嫌った光圀の人なりを伝えるものです

【茨城県常陸太田市HPより一部引用】

=== 感想 ===

私が訪れた時は早秋の時期でまだ木々も緑が残る季節でしたが、暑くもなく寒くもなく良い季節でした。入口の門から少し歩くとすぐに突上御門が迎えてくれ、横には小川が流れ周りは樹齢が300年以上もの杉の木々に覆われた場所で日陰では少し肌寒さを感じる山間の場所です。山門をくぐると茅葺の平屋建ての建物が現れ、光圀公が晩年を過ごされた住まいとしてはとっても質素な感じです

光圀公が晩年過ごした時期は現在の私ぐらいの年齢の時であり、300年前と現在では比較できないかもしれませんが、素直に「こんな山奥では何かと不便だったのでは？」と感じてしまいました。茨城県には水戸の偕楽園などの観光地もありますが、少し足を延ばして光圀公の晩年の生活を感じてみるのも良い季節になるかと思います

筆：佐々木講師

⑨
季節
⇒ 体験

＜西山荘へのアクセス＞

電車：JR常陸太田駅から茨城交通バス 上宮田代行き 西山荘入口下車で徒歩5分程度

□阪神オフィス

兵庫県西宮市の閑静な郊外、有馬温泉からほど遠くない場所に私たちの阪神オフィスがあります。

このオフィスは、全国40都府県に広がる教育事業部を統括する本部機能を担っており、全国で開催される講義に使用する資料やテキストを印刷し、全国へ配送する拠点でもあります。この機関誌もここで印刷しています。オフィス内は事務機器や書類ファイルに囲まれ、全国対応を支えています。

さらに、西日本エリアの活動をサポートする事務所としての役割も担い、地区事務局や講師が利用するための社用車も常備しています。

阪神オフィスでは、お客様への教育に少しでも貢献できることを第一に考え運営して行ければと考えています。これからも阪神オフィスをどうぞよろしくお願い致します。



三二講座 [リーダが行う現場改善 その1]

==改善の目の付け所==

- 作業性が悪くはないか？
- 不良が多く発生していないか？
- もっと早く作れないか？
- 製造工程間で仕掛りが多く発生していないか？
- 以前から同じ作業をしていないか？
- 製造の見える化がれているか？
- 最近事故が多く発生していないか？
- 作業を作業者に任せきりにしていないか？、他

== 管理者のサポート「改善には必須」 ==

- ★リーダが活動しやすい環境を整える
 - ・職場を良く観察し、自分が活動することを考える
- ★リーダにいくつかの権限を与える
 - ・活動に必要な権限を与え、ゴールを共有する
- ★文句や否定はしない
 - ・ゴールを共有し、そのゴールの達成度を評価する
文句（評価するに変える）

文句を クレームに変わる (評価するに変わる)

⑪「文句」は、個人の不満や不平不満を述べる表現で、必ずしも正当な理由に基づいているとは限りません。言いがかりに近い場合もあります。一方、「クレーム」は、商品やサービスに関する具体的な不満や要求を伝える表現で、正当な理由に基づいていることが多い

[illegible]

＜リーダの取組み＞

リーダが職場の改善を行うことは日常当たり前のことです。

「改善する時間が無い」「業務が忙しい」と言った言い訳が通じている職場は荒んだ状況になっていませんか？ リーダは時間をつくり、少しでも改善しより良い職場となるよう努力する必要があります。

そのためには、リーダーと上司と作業者の三位一体で改善活動を実施して心豊かな職場を目指すことです。リーダーとして率先してチームメンバーを牽引してチャレンジすることを業務としてとらえて欲しいです。

＜管理者の取組み＞

リーダの上司でもある管理者は冒頭にも記載したとおり、リーダが活動しやすい環境を整えていくことが改善が活性化される原点です。そのためいくつかの権限を与え、文句や否定は行わずゴールを共有し、最後まで支援に回ることです。達成できなかった内容は評価することで次回以降のステップとして指導を行うことが重要となります。改善活動が成功するもしないも管理者の支援次第であることを肝に命じ心豊かな職場を目指してください

==改善ワンポイント==

- 現象を見てすぐ対策しない
問題がどのような要因で引き起こされているのかを分析し、どのような真因が考えられるのかを紐解く
- 結果を急がない
成果がすぐに出ないからとあきらめず、腰を据えてじっくり取り掛かることに心がける

ご参考：研修コース

- ・『生産現場の問題解決』『成果が出せる現場改善』『改善の目の付けどころ』、など
改善コースでも多くの研修コースがございますので興味がある方はお問合せ下さい

- 編集責任者 : 吉田健一 (ヨシケン)
■編集担当 : はまカツ ウィボー ジェリー
■印刷 : 部式会社東京ナレッジプラン 阪神オフィス (兵庫県西宮市青葉台1-5-10)

== 編集後記 ==

東京ナレッジプランとして初めての機関誌発行を行うことになりました。今後、年2～3回程度の発刊に向けてスタッフ一丸となって取り組んでいきますのでどうぞよろしくお願い致します

テーマは「つなぐ」としており、東京ナレッジプランならびに講師陣の紹介を行っていきたいと思いますのでご期待ください